広報

あさひまち

ASAHI-MACHI

12 平成8年（1996）月号
NO.481

言葉では伝えられない被災地への思い。私たちがつくった双子キャンドルの1本を灯りに託して贈ります。クリスマスイブの夜に灯し合いましょうね。

リトルライトネットワーク（関連記事10ページ）

六十年の歳月を経て 何を語る大隅遺跡

旧石器発見六十周年シンポジウム

「幻の日本初・大隅遺跡旧石器発見六十周年記念シンポジウム」が十一月四日、町中央公民館で開かれました。このシンポジウムは、町や町教育委員会、エコミュージアム研究会が企画したもので、町内外から考古学ファン約二百人が参加。町内にある身近な宝〝大隅遺跡〟について理解を深めました。

今月はそのシンポジウムの内容を紹介します。こうした地域の宝に光を当てることにより、みなさんが地域の良さをあらためて見直し、楽しい生活環境観・エコミュージアムのまちづくりを進めましょう。

出　席　者

■シンポジスト

- 明治大学学長　戸沢　充則氏
- 東北芸術工科大学教授　加藤　稔氏
- 朝日町教育委員会教育委員長　菅井　進氏
- 朝日町教育委員会教育長　阿部美喜男氏

■コーディネーター

- 山形県埋蔵文化財センター研究課長　佐々木洋治氏

大隅遺跡を知らない人のために

〝幻の日本初〟となった大隅遺跡誕生物語

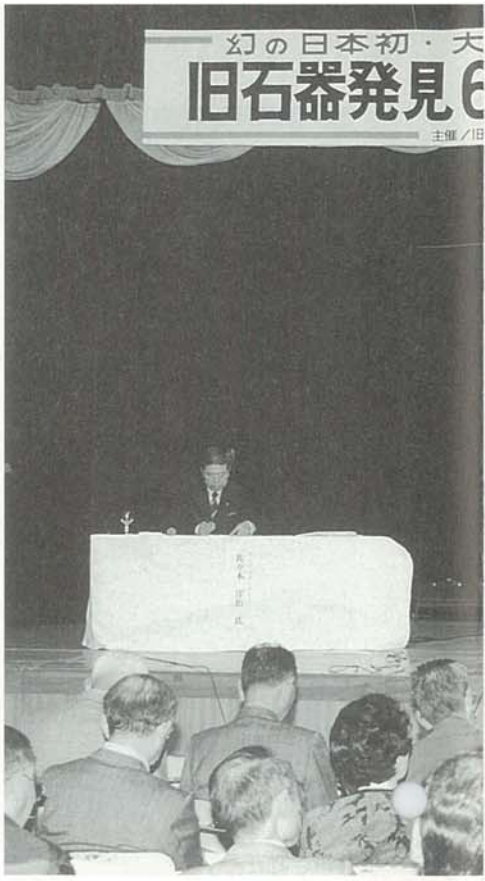
不思議な石片の発見

昭和十一年、木橋であった明鏡橋が、コンクリート橋に架け替えるための工事が行われていたころ、道路わきの崖の切り崩しが始まったときに、たくさんの石片が塊のように出てきました。それを見つけた土地所有者の大竹國治氏は、「普通の石器とは形が違っているが、大切な人類の歴史的遺物かもしれない」と思い、それらの石器（五十八点）を屋根裏に、十一年間大切に保管していました。

菅井氏と大隅の石器との出会い

菅井進氏が初めて大隅の石器を見たのは、昭和二十二年冬のことです。大竹氏が、その石器を和合小学校に「何か考古学に

大隅から出土した旧石器



最上川の大隅河岸段丘が旧石器人の生活の場

加藤　稔氏

●**司会**　現在は、島根県の加茂岩倉遺跡発掘調査や青森県の三内丸山遺跡など、毎日と言っていいほど新聞やテレビで報道され、空前の考古学ブームとなっています。

　本日は「朝日町旧石器と暮らしを探る」について話し合っていただきます。各先生方に「私にとって大隅遺跡とは何か」をお伺いします。初めに加藤先生お願いします。

●**加藤**　私と大隅の旧石器との出会いは、昭和二十八年四月、明治大学の芹沢長介先生より『縄文第三集』に大隅の記事が掲載されていることを教えていただき、五年後の昭和三十三年十月、菅井先生にお願いし石器と遺跡を見せていただいたのが初めての出会いになります。

　石器を初めて見た感想は、ほとんどが石刃（道具としては完全に完成していない材料石のこと）であり、石槍のような完成された石器が無かったことで、はっきり旧石器と言えるものかどうか自信がなかった、よく分からなかったというのが本心でした。

　その後、地質、自然地理、地形の先生とで山形第四紀研究会をつくり、西村山全域の遺跡を発掘するようになり、再び大隅遺跡を訪れたのは、昭和四十年代の後半でした。

日本での旧石器に対する当時の認識

　日本において旧石器の研究が本格的に進められるようになったのは、昭和二十四年九月、群馬県岩宿で明治大学による発掘調査が行われてからです。それ以前は、日本に旧石器があったかどうかは分かりませんでした。また、学者の間では、氷河時代（旧石器時代）の日本に人類は住んでいなかったということが常識でした。その理由の一つに、役に立つものではないか」と思い、田原眞稔氏に持って来たものでした。

　その当時の田原氏と菅井氏は、和合小学校に勤務しており、東北・北海道地方の研究者約五十人で「縄文文化研究会」を発足し、考古学の研究を始めたころです。そこで大隅の石器の研究を菅井氏が担当することになり、たくさんの石器の中から四点だけを選び実測図を作製しました。昭和二十二年一月三十一日のことです。その実測図は、後に発行した『縄文第三集』の「粗石器に関して」の論文にそのまま使われました。

日の目を見なかった大隅の旧石器

　菅井氏は、旧石器の定義として「赤土から下の洪積世（氷河時代）に含まれるもので、絶滅した動物の遺骸（骨など）を伴うことを要する。そして土器は伴わない」ことを当時の知識として知っていました。

　大隅の石器を観察してみると、①縄文時代の剝片とかなり異なる形状　②古さを感じさせる色合い（古色）　③赤土が石器に確かに付着している　④土器を伴わない　⑤ヨーロッパの旧石器（ナイフ）に似ている　などのことから、菅井氏は、それらの石器がどれほどの古さをたどれるか分からないにせよ、旧石器に間違いないと確信しました。

　旧石器との出会いからおよそ二年後の昭和二十四年三月、菅井氏は、『縄文第三集』に「粗石器に関して」と題し、大隅の石器四点のほか一点を図示した短い論文を発表しました。

　これは考古学史上、日本で初めて旧石器の存在を学会に問うものであり、また、群馬県岩宿のローム層から、旧石器が日本で初めて発見されたとする日より六ヵ月前のことでした。

　では、なぜ大隅の旧石器が日の目を見ることがなかったのかといえば、発表された『縄文』という同人研究誌が、戦後、爆発的な興隆期を迎えていた東京の考古学界から遠い存在であったことや、岩宿に集まったような学史的な背景をになった研究者が近くにいなかったことなどが大きな理由となっています。

「火山活動の盛んだったと思われるローム層（赤土）の中に人類が住めるはずがない」と言う説が有力で、〝旧石器がある〟ということ自体が禁句でした。発掘のときにローム層が現れたときには作業が中止になっていた時代です。

昭和54年に行われた大偶発掘の様子

を訪れました。
　再び石器を見て分かったことは、広い意味でローム層から出たものでした。そこは最上川の河岸段丘では一番低く、河原にもっとも近い段丘であり、古くても三万年は経たないということです。昔は、現在の大隅遺跡の所に最上川が流れており、川の流れが変わり干上がった時に旧石器人が暮らし始めたということを、地層の断面から判断しました。

菅井　進氏
今なお続く大隅遺跡の調査研究

●**菅井**　私が『縄文第三集』に「粗石器に関して」の論文を発表できたのは、田原眞稔氏のおかげです。当時十九歳だった私は、論文の書き方も知りませんでした。幸いにも旧石器に関して豊富な知識を持っていた田原氏がそばにおり、助言や指導をしていただきました。そのおかげで、旧石器の実測図を描き発表できたのだと思います。
　しかし、残念なことに『縄文第三集』が東京の考古学界から遠い存在であったことや、学史的な背景をになった研究者が近くに存在しなかったことなどにより、日の目を見ることができませんでした。考えてみると、論文「粗石器に関して」の不備な点を明確に弁明するために、これまで研究してきたのだと思います。

●**司会**　ありがとうございました。つづいて、菅井先生お願いします。

大隅遺跡で発見された貴重な旧石器や研究資料が展示された

阿部美喜男氏
先人の築いてきた歴史の活用が大切

●**阿部**　各先生方から大隅遺跡が紹介されましたが、私が担当している教育という立場から申し上げれば、「生涯学習の推進」が大きな割合を占めています。もちろん朝日町が目指している「エコミュージアムの理念に基づいた町づくり」からも、教育を進めていかなければならないと思っています。大隅遺跡だけでなく、今後朝日町をどのようにしていくのかが重要です。
　これからは、自然と人間の共生が欠かすことのできない課題です。幸いにも朝日町には恵まれた自然があり、自然から学ぶべきことがまだまだたくさんあります。その自然の大切さを個人だけでなく、地球規模で考えなければなりません。最近、特に問題になっている地球の温暖化現象なども含めて、私たちがこれから未来に向ってどんな町づくりをしていくのかが大切なことです。
　また、私たちの足元には、大隅遺跡のような歴史的に重要なものがあります。先人たちが長い年月をかけて築きあげた歴史があります。それらをどのように活用し、見つめ直していくのかが大切なことだと思います。すなわち総合的な「郷土学習」を進めることによって、最終的に遺跡などの研究にもつながっていくのではないでしょうか。

●**司会**　次に阿部先生お願いします。

●**司会**　それぞれの立場からお話をしていただきました。ありがとうございました。つづきまして、戸沢先生より大隅の当時の生活環境についてお聞かせください。

和合小学校児童による「旧石器時代の朝日町に住む人々」の想像画が展示された

加藤氏や戸沢氏による石器の鑑定が行われ、子供たちの見つけた石器が石刃と鑑定されて、思わずにっこり

戸沢　充則氏

歴史とは地域に根差した生活の積み重ね

●**戸沢**　大隅の石器は、旧石器時代の終わりに近い、一万五千年から一万三千年前のものです。旧石器時代とは、数百万年から一万年前の時代のことで、人類の歴史の大部分を占めています。現在の文明が発達した時代は、人類の長い歴史からみれば、ほんのまばたきのようなものです。

大隅の旧石器時代のころは、最後の氷河時代が終わりをつげ、現在の日本平均気温より七度から八度低い時代でした。朝日町で例えれば、朝日連峰と同じ高さのところに住んでいたことになります。そのような場所に生きながら、子孫を残してきたことが非常に大切なことです。

しかし、なぜ生き延びられたのかなどと学者に問われても分かりませんし、これらのことはみなさんと一緒に考えていかなければならないことなのです。特に歴史や自然、農業を研究するならば、その地域に住み、地域に根差した実践的な研究をしていかなければならないと思います。地域の歴史を少しずつたずね、自然とかかわりあいながら進化してきた生き方、すなわち、この地域に住んでいるみなさんの四季にあった生活の積み重ねが、歴史につながっていくのです。生活の暮らし方をみなさんが学び、研究していくことが、旧石器時代の生き方や人類が生まれた歴史を考えることになると思います。

●**司会**　ありがとうございました。朝日町は、山や川などの自然を非常に大切にし、エコミュージアムの町づくりを実践しています。その中でも現在まで昔ながらに伝えられてきた山や川を上手に活かした暮らし方や、大隅のような歴史的に重要なものなどがあります。それらを今後どのように活用していくのかお伺いします。阿部先生いかがでしょうか。

●**阿部**　大隅遺跡をきっかけに、これからどのようにエコミュージアムの町づくりを進めていくのかが大切なことです。

朝日町にはすばらしい宝がまだまだ眠っています。遺跡に触れながら、町民のみなさんが興味を持ち、郷土の歴史を学んでいただきたいと思います。

●**司会**　ありがとうございました。それでは菅井先生に大隅遺跡の大きさと、大隅遺跡に対する夢をお聞かせください。

●**菅井**　大隅遺跡がある台地はまだまだ広く、旧石器が出る可能性は十分にあります。

しかし、発掘こそが遺跡の破壊を進めるものです。他の遺跡では、発掘をしてみたものの風化が著しく埋めもどされた例もあります。「旧石器の日本発祥の地」とでも看板を立てていただければ嬉しいです。

●**司会**　発掘こそが遺跡の破壊であるというお話でした。

一方では、これから二十一世紀を迎えるにあたり、科学や実物で証明することを考えながら前進していく「温故知新（おんこちしん）（昔のことを研究して新しい知識や道理を知ること）」も必要であると考えられます。

それでは、最後に戸沢先生よりお願いします。

地域を学び研究することがエコミュージアムの町づくりに結び付く

●**戸沢**　朝日町のエコミュージアムの理念を取り入れた町づくりを、もう一度思い出していただきたいと思います。

現在は考古学ブームです。大規模に遺跡を発掘し、町づくりや観光をしている所もあります。しかし、何かが出たから町の活性化につなげるのではなく、これからもしかすると二十年、五十年、百年かかるかもしれませんが、みなさんがこの地域のことを研究するという積み重ねることの過程を大切にしていただきたいと思います。一時のうわついたブームに流されることなく、長い時間をかけて先を見通しながら、みんなが協力してじっくりと何かをつくりだすことが、エコミュージアムの町づくりの基本なのではないでしょうか。

●**司会**　大変貴重な提言ありがとうございました。これを契機に地域の宝に光を当て、地域を見直し、エコミュージアムの町づくりが進んでいくことを願って終了いたします。ありがとうございました。

町づくりの功労者を表彰

平成8年度 自治功労者表彰式

今年度の自治功労者等町づくりにご尽力いただいたみなさんの表彰式が十一月二十二日、町中央公民館で行われました。受賞された方は次のみなさんです。

なお、寝たきり介護などの善行褒賞につきましては、別席上で表彰することを検討しています。

受賞者のみなさん

自治功労表彰

観光振興功労

●菅井　敏夫氏（西町）

昭和五十五年から十六年の長きにわたり町観光協会の要職を歴任されるとともに、世界に類例のない空気神社を創設されるなど町の活性化と観光振興に寄与されました。

産業振興功労

●長岡　玉治氏（太郎三）

昭和四十八年以来長年にわたりワラビや山ウド、行者ニンニクなど山菜の栽培研究に努められ、遊林農地の活用と山菜栽培の普及指導、地域産業振興に寄与されました。

教育功労

●今野　彌生氏（本町）

山形県公立学校教員として三十七年の長きにわたり勤務され、児童生徒の教育並びに町教育の振興発展に寄与されました。

体育功労

●白田　進氏（大谷一）

昭和五十一年から二十年の長きにわたり町体育指導委員及び町体育協会の要職を歴任されるとともに、町剣道連盟会長として町体育の振興発展に寄与されました。

交通安全功労

●阿部　重吉氏（大谷六）

消防団に新たな旋風

役場消防部結成

近年、消防団員の町外勤務が多くなったことで、日中の有事における出動可能人数が少なくなっていることから、町では新たに「役場消防部」を設置し、十一月二十七日にポンプ車の納入式と放水式を行いました。

今回設置された役場消防部は、すでに地元各部の消防団員として活躍している若手の役場職員十五人で構成されたもので、町の消防体制の新たなる戦力として期待されているものです。

有事における出動体制は、原則として役場勤務時間内とするもので、勤務時間外については、現在所属している地元各部の団員として出勤することになります。

あいにくの雨となったこの日は、車庫でポンプ車の納入式を行い、その後、団員による放水式も行われ、きびきびした動作で放水を披露しました。役場消防団員は次のとおりです。

部長	佐竹　壽美（現二の三）	
一班長	阿部喜栄治（現三の二）	
団員	長岡　浩利（現三の一）	
〃	長岡　勉（現二の一）	
〃	畑　英俊（現三の一）	
〃	伊藤　淳（現一の二）	
〃	小野　康仁（現三の一）	
〃	佐竹　秀文（現二の五）	
二班長	阿部　弘美（現二の四）	
団員	鈴木　良浩（現三の一）	
〃	阿部　正文（現二の六）	
〃	鈴木　勝（現二の三）	
〃	早坂　健一（現三の一）	
〃	阿部　正樹（現二の二）	
〃	阿部　容一（現二の四）	

きびきびした動作で放水を披露した役場消防団員

善行褒賞

昭和三十六年から三十五年の長きにわたり大江地区交通安全協会理事及び大谷支部長を歴任され、交通安全の確保と交通安全思想の普及指導に寄与されました。

●大竹　春一氏（栄町）

十年間の長きにわたり冬季間役場十字路より町立病院までの歩道及び防火水槽などの除雪を行い、通院者や歩行者の交通安全に尽力されている行いは他の模範です。

●川村　庄市氏（大谷六）

八年間の長きにわたり冬季間大谷小学校から主要地方道に至る通学路の除雪を行い、児童生徒や教職員の交通安全の確保に尽力されている行いは他の模範です。

●遠藤　昭三氏（栗木沢）

長年にわたり地区敬老会の折りに生そばを提供され、敬老者に喜ばれている行いは他の模範です。

清野町長らが玉串を捧げ、安全を祈願した

感謝状

●今井　倭子氏（前田沢）

国際的なオペラ歌手として活躍されているかたわら地域でリサイタルを開催されるなど、音楽活動を通して芸術文化の振興に貢献されました。

●長岡　鉄夫氏（常盤）

昭和六十三年より八年間の長きにわたり町健康増進センターの夜間監視員として、施設の管理と利用者の利便に寄与されました。

●長岡　四郎氏（大谷五）

昭和六十一年より十年間の長きにわたり町北部公民館並びに北部体育館の鍵保管貸し出し業務に務められ、施設利用者の利便に寄与されました。

●朝日町五十四区納税組合

日ごろ納税意識の高揚に努められ、組合員一致協力して町税の完納を継続されるとともに、二カ年連続して町税の全税目完納達成に尽力されました。

作業効率化へ向け

大谷地区担い手育成基盤整備事業起工式

大谷地区担い手育成基盤整備事業の起工式が十一月二十一日、現地で行われました。

関係者約百人が出席するなか、清野町長や矢萩山形平野土地改良事務所長らが玉串を捧げ、工事期間中の安全を祈願しました。

現在のほ場は、明治四十五年に十アールの区画に整備されたもので、道路や用排水路の老朽化も著しく、また、ほ場が分散していることから作業効率が悪いため、早期の基盤整備が望まれていたものです。

今回の基盤整備は、一区画が三十アール～一ヘクタールに広げられ、今年度の工事面積は、区画整理面積百十四・五ヘクタールのうち二・三ヘクタールとなります。完成は平成十二年度の見込みで、総事業費は約十五億円です。

技能者表彰

●渡邉　金二氏（本町）

四十三年間にわたり菓子製造の職に精励され、町内の素材を活かしたアイデアと卓越した技能を駆使した土産品を開発されている行いは他の模範です。

●熊谷　久雄氏（四ノ沢）

昭和二十五年より四十六年間の長きにわたり横編みニット製造の職に精励され、技術向上に尽力されるとともに業界の振興発展に寄与されている行いは他の模範です。

●藤田　英一氏（大谷五）

昭和二十九年より四十二年間の長きにわたり横編みニット製造の職に精励され、技術向上に尽力されるとともに、業界の振興発展に寄与されている行いは他の模範です。

●阿部八十八氏（大谷五）

昭和二十五年より四十六年間の長きにわたり畳製造職に精励され、昭和四十三年に一級技能士に合格し、自己研鑽しながら技術向上に尽力されている行いは他の模範です。

●伊藤栄三郎氏（常盤）

昭和二十八年より四十二年間の長きにわたり建具製造職に精励され、昭和四十六年に一級技能士に合格し、自己研鑽に努め技術向上に尽力されている行いは他の模範です。

人権に対する理解と協力を

人権モデル地区指定から半年

権のまど　人

国より人権モデル地区の指定を受け半年が過ぎました。人権モデル地区の活動は、人権思想の普及高揚を図るために、啓発活動を通しながらお互いに相手の人権を尊重することで、更に明るく住みよい地域社会をつくろうとするものです。

これまでの主な活動は、保育園を始め小・中学校、高校、公共施設に人権の花の苗を配布し、花を育てながら心豊かで、人に対する思いやりの心をはぐくんでいただきました。また、九月二十八日から十月二日まで世界人権宣言パネル展示会を開催し、町民のみなさんより関心をいただきました。これからは、小学生による人権書道展や講演会などを開催し、啓発活動を行う予定です。

これらの運動を通しながら、みなさんの人権思想に対する理解をお願いします。

二十一世紀に向け！元気で跳ぼう朝日町

第十七回朝日町産業まつり

カメラさんぽ

第十七回朝日町産業まつりが十一月二十三日、二十四日の両日、町民体育館を主会場に盛大に行われました。

二十三日は、りんご品評会、工業優秀技能者、朝日町十景写真コンテストなどの表彰式が行われ、各分野で活躍されたみなさんが表彰を受けました。また、会場では町内の企業や商店で生産、販売されている製品や商品の展示販売のほか、グリーンクラブの子供たちによるもちつき大会、ゲートボール大会など、多彩なイベントが繰り広げられました。

職人の眼がギラッと光り、眠っていた包丁がキラッと輝く（建設総合組合包丁研ぎ実演コーナー）

バクダン爆発寸前！（米まつりバクダン無料サービス）

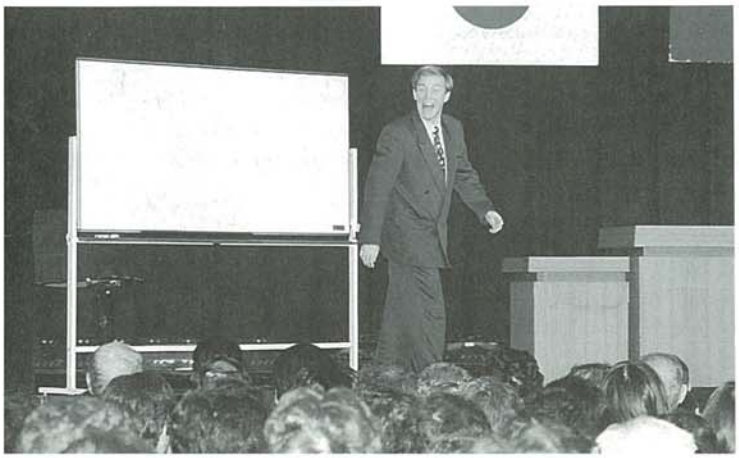
会場には町の工業製品や特産品が所狭しと展示された（町民体育館）

グリーンクラブの子供たちが植えたもち米をつき、納豆もちにしてふるまわれた（町民体育館前）

「生涯現役」81歳の清野豊さん（四ノ沢）が作製した桐たんす
寸分の狂いもない

三平汁の無料サービスに長蛇の列ができた

日本一の無袋ふじ



協賛事業のダニエルカール氏による文化講演会には二百八十人の傍聴者で会場はいっぱい（中央公民館ホール）

みんなのひろば

このひろばはみなさんのページです。話題や意見、作品など、ご自由にお寄せください。

■連絡先 役場総務課文書広報係へ
☎67−2111（内線216）

すてきな仲間たち
リトルライトネットワーク

被災地への思いをキャンドルに託して

昨年１月に発生した阪神・淡路大震災の被災者にお客様がいたことで、その方たちのためにキャンドルづくりを始めたのが、リトルライトネットワークの始まりです。おかげさまで、昨年に引き続き町内はもちろんのこと、県内外から多くの方に参加していただき1,000対のキャンドルを被災地に届けることができました。

また、自分がつくった双子のキャンドルを、クリスマスイブに山形と神戸で共に灯しあいながら、大震災のことを忘れずに振り返っていただければと思っています。

今後は、リサイクルキャンドルづくりの仲間を増やしていきたいと思います。興味のある方は気軽に参加してください。　（代表　安藤竜二　☎68-2207）

さわやかさん新婚さん

大町（サンコーボラス宮宿）／今井　一成さん　千恵さん

山形のそばが大好きで、よく食べに来ていたという千恵さんは仙台生まれ。お母さんの勧めで、町主催のアップルカップルパーティーに参加し、会場の自然観で出会ったのが一成さん。会った瞬間に「あっ、この人が理想の旦那様だ」と決めてしまったとのこと。一成さんも話しているうちに、音楽や映画など何でも話が合い、すっかり引かれてしまいました。特に思い出深かったのは、仙台に住む千恵さんにとって毎年の事と、まともに見ることがなかった「光のページェント」。二人で過ごした仙台の夜は、きっと格別なものだったのでしょう。

車の運転が出来ない千恵さんは、大好きな本を買うのにも一苦労。一成さんの休みに合わせ予定表を作っては、買い物や大好きな「山形のそば」を食べに出かけるとのこと。

「朝日町は自然も豊かで満足しています」と声をそろえて話すお二人。信頼しあう姿が印象的でした。

せんせい ふたば保育園 あ・の・ね

（ランチルームにて）

保母「給食はおいしいですか」
園児「うん。今日はラーメンだよ」
保母「伸びるから早く食べましょうね」
園児「ぼく好きだからよ、うがくして食べんなだ」
保母「ほだな、うまいがや」
園児「ぼくの家でみんなそうして食べるもん」

となりのリンゴさん

作・ホリィ (96)

佐竹　正二さん
（八ツ沼）

ひとことトーク

日本一のりんごつくりをめざして

～町りんご品評会で2度目の最優秀賞受賞～

りんごつくりは毎日が無我夢中の勉強です。十八年前からりんごをつくり始めましたが、先輩方に指導していただき、なんとか自分なりのりんごをつくれるようになりました。苦しいこともありましたが、食べていただいた方に「おいしい！」といわれた時が、りんごをつくってきて本当に良かったと思う一瞬です。

りんごの作業は毎年同じことの繰り返しだとはいうものの、その作業は一年に一回しか経験できません。毎年天候も違うし、樹に教えられることが数多くあります。

りんごを取り巻く環境も厳しくなっていますが、「日本一りんごの里　朝日町」の名に恥じないようなおいしいりんごを生産するため、これからも勉強しながら一生懸命がんばります。

わが家のアイドル

「にらめっこしましょう」

齊藤　悠飛ちゃん（7カ月・常盤）
（両親は充人さん・知恵美さん）

「わたしとボールどっちが大きい」

佐藤　真澄ちゃん（8カ月・助ノ巻）
（両親は光広さん・美奈子さん）

「乗りものが大好きです」

鈴木　美香ちゃん（1歳・中沢）
（両親は正弘さん・清美さん）

「わたしと一緒に遊びましょう」

大波　由奈ちゃん（10カ月・夏草）
（両親は智幸さん・美賀さん）

おじゃまします 社長さん

白田鉄工所㈱

（大谷五）

社長　白田金之助さん
昭和36年５月８日生（35歳）

会社はＪＡさがえ西村山大谷支所隣にある

寸分の狂いもなく加工する

▼会社では、どのような仕事をしているのですか。

給排水設備を始め、庫庫つくりや溶接なども行っています。また、町水道工事指定店にもなっています。

▼会社の概要を教えてください。

昭和二十六年、先代の白田金之助が開業し、平成元年、新たに白田鉄工所㈱を設立。私で二代目となり現在に至っています。従業員は家族も含め七人います。

▼自慢できることは何ですか。

自慢できることなどは別にありませんが、昔の私のあだ名が「真っ黒かじや」と呼ばれていました。昔の溶接はコークスを燃やして行っており、どうしても顔などがすすけていたからだと思います。今の溶接は技術も進歩しすすけることなどありませんが、やはり私たちの仕事は汚れていくらの世界です。汚れることが私たちの勲章です。

▼社長がいつも心がけていることを教えてください。

生活に欠かすことのできないのが「水」です。その大切な仕事にたずさわれる喜びと、お客様に心から喜んでいただける仕事をしたいと思っています。コミュニケーションを大切にし、家庭的な職場づくりを心がけています。

町民の声特急便コーナー

町民のみなさんより、お寄せいただいたご意見・提言を紹介します。

左　荒線の早期実現をお願いします。山形市内への高校進学者は、下宿生活をしなくてはならないので、家庭の財政困難の原因となります。人の流れも左荒線により変わるのではないのでしょうか。

齋藤了子（栄町）

内陸循環鉄道左荒線は、昭和十一年に閣議を通過し、昭和十五年に完成と決定され測量調査が行われましたが、日華事変のため休止となりその後工事は復活することなく現在に至っています。昭和四十九年に促進期成同盟会が五市六町で結成され、官民一体となり運動を行ってきましたが、膨大な赤字を抱える国鉄の分割民営化や山形新幹線の開業などにより、内陸循環鉄道構想をとりまく情勢は大きく変化してきました。

これらの状況から、六年度に促進期成同盟会事務局の朝日町が会員の山形、上山、寒河江、南陽、長井五市と山辺、中山、大江、白鷹、川西五町に意向調査を行った結果、「解散すべき」との声が八市町より出され、「代替案で方向を見いだし、発展的解散を」との方針を同年総会で採択。県との協議を経て今年の十一月十二日、正式に促進期成同盟会が解散されました。

今後は、鉄道に代わるものとして、国道287号線を山形自動車道へのアクセスなどを見据えた「規格の高い」道路として整備し、寒河江市、山形市などへの通勤・通学時間の短縮が可能となる具体的な運動を展開する必要があると考えています。

（企画課）

寒　河江市立図書館のような充実した図書館の整備をお願いします。

鈴木史織（元町）

現在の中央公民館にある図書館は、床面積が狭く蔵書数も限られており、図書館機能を果たし得ない状況と認識しています。

現在計画している新しい図書館は、役場庁舎南側に建設予定の（仮称）生涯学習センターに併設する予定です。床面積も現在の図書館の数倍確保し、蔵書数も大幅に増やし資料室も設け、町民の生涯学習活動の拠点にしたいと考えています。平成十一年度完成の予定です。（企画課）

職場インタビュー

〈プロフィール〉
五十嵐葉月さん（21歳）
中沢・獅子座・O型
第六工区共同企業体勤務
（㈱ユアテック・㈱サンテック）

Q趣味は何ですか
ドライブです。ドライブのついでに、ふらっと買い物に行ったりするのも趣味のひとつかな。カラオケなんかも大好きですよ。いろんなジャンルの歌を歌います。
それから、あまりうまくはないんですが、ボウリングなどもやります。

Q休日は何をしていますか
買い物に行ったりすることが多いですね。また、料理をしたりすることもあります。得意なものはズバリ、ロールキャベツです。

Q今してみたいことは
どこかのんびり旅行に行きたいですね。海のそばの温泉で一日中海を眺めながらゆっくりしてみたいです。

Q理想の男性は
私をよく理解してくれて、頼りがいがあり、ぐいぐい引っぱってくれる人がいいです。また、一緒にいて疲れない人がいいですね。

Qどういう町にしたいですか
豊かな自然をやたら開発しないで、そのままの自然をいつまでも残し、落ちついて住める町であってほしいです。

わたしたちのおじいちゃん おばあちゃん

大暮山
鈴木　理恵さん（大谷小大暮山分校6年）
紋子さん（大谷小大暮山分校3年）
美幸さん（大谷小大暮山分校1年）
おじいちゃん 長十郎さん（76歳）
おばあちゃん いまよさん（70歳）

わたしのじいちゃんは、とても働き者です。この前は、大根ぬきをほとんど一人で終わしました。疲れている顔を見せないでがんばるじいちゃんはすごいと思います。
ばあちゃんは、私たちのめんどうをよくみてくれます。とても物知りで、いろいろなことを教えてくれます。
私は、早く大きくなってじいちゃんやばあちゃんに楽をさせてあげたいと思います。それまで、体をいたわって元気でいてください。―理恵―

くらしの知恵袋 ⑦

お正月料理に欠かせない「棒ダラ煮」。骨まで柔らかく、重厚な味わいになるまで心を込めてじっくり煮てみましょう。

＝材料＝

・棒ダラ	600 g	・砂糖	400 g
・醤油	150 cc	・みりん	少々
・酒	少々		

＝つくり方＝
①棒ダラを一晩水につけ、きれいに洗う。
②水を替え、たっぷりの水で強火で30分煮る。2～3回さし水をしながら、骨が柔らかくなるまでとろ火で水煮をする。
③柔らかくなったら、水煮したものに砂糖を入れる。
④10分くらい煮てから醤油とみりんを入れて、味がしみ込むまでとろ火で煮込む。

◆味付けは自分の好みで加減してください。

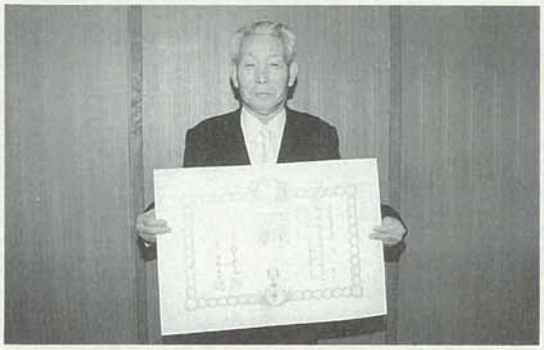
【今井と江さん・新宿】

正月料理「棒ダラ煮」

秋の叙勲

安達淳壽氏・佐竹薫氏が勲五等双光旭日章を受章

安達淳壽氏（本町）



佐竹　薫氏（松程）

秋の叙勲で、安達淳壽氏（本町）と佐竹薫氏（松程）が勲五等双光旭日章を受章されました。

安達氏は昭和三十四年に安達医院を開業。主に山間集落の往診を行い、住民の健康増進に尽力されました。さらに、五十八年から去年まで県成人病センター所長も務められ、広域的に成人病撲滅のための地域的医療活動が認められたものです。

佐竹氏は昭和三十八年に朝日町議会議員に当選以来、平成七年までの連続八期三十二年間にわたり在職されました。また、朝日町議会において議長、副議長並びに文教厚生常任委員長などを歴任し、町の産業、教育、福祉の向上に尽力されました。

両氏とも長年にわたり、福祉の向上や地方自治の振興発展に大きく貢献されたことが認められ、叙勲の栄に浴されたものです。

▼死亡叙勲（地方自治功労）

◇勲六等単光旭日章

志藤長太郎氏（元町議・川通）

◇勲六等瑞宝章

安藤　貢氏（元町議・松原）

ふるさとへの思いを込めて

阿部美喜男さんが郷土学習辞典を出版

「郷土学習のお役に立てれば」と語る阿部さん

町教育長の阿部美喜男さん（大町）が『物言わぬ偉大なる教師　郷土学習辞典』を自費出版しました。

この辞典は朝日町の自然や行政、歴史などを役場職員や環境庁自然公園指導員などで培ってきた豊富な経験と知識を活かしまとめたものです。全体は6部構成で、朝日町の気候や地形、動植物などを紹介した自然編。町の誕生から現在の課題を掲載した行政編。社寺仏閣や遺跡などを記録した歴史編のほか、各地名の由来などを収録した地名編、朝日銀山の随想や民話、伝説などといった貴重な資料がたくさん掲載されています。

阿部さんは「足元にある素晴らしい自然や伝統を知っていただき、郷土学習のお役に立てれば」と、出版の動機を語っていました。

購入希望の方は、朝日自然観もしくは近江屋で販売しています。

日本一のりんごの町をアピール

銀山本店前　朝日町のりんごキャンペーン

先着60人にりんごがプレゼントされた

日本一のりんごの町をアピールしようと、十一月十八日、十九日の両日にわたり、朝日町りんごキャンペーンが山形市の山形銀行本店前で行われました。

このキャンペーンは、特産の無袋ふじの収穫期を迎え、りんご消費拡大と町の観光ＰＲを目的として開催したものです。

当日は、主力品種であるふじや王林、八月に降雹被害に遭ったものを「えくぼちゃん」のネーミングで格安に売り出し、道行く人々はお買い得とばかりに、つぎつぎと買い求めていました。

また、十八日の正午から、清野町長が買い物客ら六十人にりんご（二個入）をプレゼントし、「りんごの里あさひまち」をアピールしました。

藤原光雄氏（本町）が青少年国民運動功労者表彰を受賞

青少年育成国民運動発足三十周年記念大会で、朝日町青少年町民会議会長の藤原光雄氏（本町）に、㈱青少年育成国民会議会長より青少年育成国民運動功労者表彰が授与されました。

藤原氏は、昭和四十五年より青少年指導推進員、昭和五十八年から青少年育成町民会議会長として、長年にわたり地域の青少年育成にご尽力され、その功績が認められたものです。おめでとうございました。

佐藤賢一氏（宿）が農林水産大臣感謝状を受賞

毎年十月十八日の「統計の日」を記念して、農林水産大臣より農林水産統計情報業務協力者に感謝状が贈られています。今年は、農業経営統計調査員の佐藤賢一氏（宿）に感謝状が授与されました。

佐藤氏は、昭和五十六年より農業経営統計調査員として、十五年間の長きにわたり農林水産統計情報業務の推進に尽力され、その功績が認められたものです。おめでとうございました。

交通難所の解消に向けて

三中トンネル貫通式

登坂助役と森川寒河江建設事務所長による通り抜けの儀

主要地方道長井大江線・三中トンネルの貫通式が十一月二十七日、現地で行われました。

トンネルは延長百三十七メートルの二車線で、道幅は約六メートル。片側に幅二・五メートルの歩道を設置し、前後の取り付け道路を含めた新ルートは七百四十メートルとなります。

この日は、関係者五十人が出席するなか、たるみこしや万歳三唱で貫通を祝いました。供用開始は来年三月の予定です。

がんばった人に拍手！

パチパチ

■第31回西村山地区秋季ロードレース大会（10/20）寒河江市　◆高校・一般の部　1位　海野宏行　2位　鈴木幸喜　«総合成績»◆高校・一般の部　1位　朝日町　◆中学校男子の部　3位　朝日中

■北部青年教室スポーツ交流会（11/3）秋葉山交遊館多目的広場　◆3on3バスケットボール大会　1位　ステップマンJr　2位　プレイボーイ　3位　鈴木ブラザーズ　◆ミニグラウンドゴルフ大会　1位　長岡藤夫　2位　東栄　3位　白田運吉

■第43回西村山地区駅伝競走大会（11/6）西村山一円　2位　朝日A　8位　朝日B

■町民バレーボール大会（11/17）町民体育館　◆男子の部　1位　ベストフレンズ　2位　のんべ　◆女子の部　1位　分校OB　2位　アップルワンズNO1　3位　アップルワンズNO2

図書券が当たる 広報クイズ

【問題】

問1　右写真は今年で結成10周年を迎えた「劇団○○○村から」

問2　町に新しく設置された消防部は「○○消防部」。

問3　阿部美喜男さんが出版した「○○学習事典」

【応募方法】（1月31日締め切り）正解を「広報あさひまち」の折り込みハガキに書いて送ってください。正解者の中から抽選で3人の方に図書券をプレゼントします。また、答えの下に広報の記事について感想をお聞かせください。お願いします。

【11月号の答え】ナメコ・83・7%・60周年

【応募者総数】36人

【11月号の当選者】阿部晃宙さん（夏草）・榊キヨさん（大谷五）・鈴木幸子さん（横須賀市）

■11月1日～30日届出

すこやかに

（出生届）

区名	出生児氏名	保護者名
前田沢	佐藤花菜里	欣治
小原	菅井麻子	秀一
八ツ沼	阿部翔千	信治
大町	鈴木千千	浩幸
大町	鈴木都晴	浩幸
宿	佐藤祥真	祐市
小原	菅井優衣	源三郎
大谷六	加藤南美	正幸
新宿	笹原有希也	勉
大町	茨木千達	孝憲
小原	菅井奏江	芳弘
宿	佐藤大介	伸一

おしあわせに

（婚姻届）

田中靖士（四ノ沢）	♥	阿部恵子（酒田市）
小野武夫（大谷七）	♥	渋谷登貴子（長井市）
遠藤智義（栗木沢）	♥	太田直子（大石田町）
相座裕行（太郎二）	♥	沖津真理（寒河江市）
冨樫高男（西町）	♥	村川弘美（天童市）

やすらかに

（死亡届）

区名	死亡者氏名	世帯主
能中	鈴木文藏	たか子
常盤	長岡捷治郎	ま き
宇津野	村山五助	辰雄
本町	安藤繁藏	マサエ
西町	阿部シヅエ	惣一郎
大谷七	堀藤吉	敏男
太郎一	清水邉志ん	庄兵衛
宇津野	渡邉利八	長吉
杉山	渡邉竹三	新一子
松程	佐藤郁セイ	

人口と世帯数

●平成8年11月30日現在

人口		9,991（ 10）
	男	4,962（減 1）
	女	5,029（ 11）
世帯数		2,585（ 0）

（ ）内前月比

わたしの作品

〈大谷小学校〉

「大きくなったヘチマ」
4年　白田　皇喜くん

「本よみ」
川通分校1年　志藤　陽平くん

「窓から見た風景」
6年　遠藤　友美さん

「こわい赤おに」
3年　川村　良太くん

▼町へ寄付

・大町の阿部美喜男さんより、（仮称）生涯学習センター備品購入基金として現金十万円いただきました。

・寒河江市の高橋亘さんより、草苅一夫氏作「明鏡橋」の絵画をいただきました。

・西町の佐竹勝弘さんより、掛け時計をいただきました。

▼㈶朝日町育英会へ寄付

大町の多田積さんより現金十万円、西町の鈴木たかさんより現金十七万八千二百円をいただきました。

春夏秋冬

編集後記

▼今月号の特集は、先月号でも紹介した「幻の日本初・大隅遺跡旧石器発見六十周年記念シンポジウム」の内容と大隅遺跡の歴史についてみなさんに紹介したものです。朝日町にも歴史的にすばらしい貴重な遺跡があることを分かっていただけたと思います。

旧石器発見から六十年が過ぎ、幻の日本初となってしまった大隅遺跡は私たちに何を語りかけているのでしょうか。

私は、「日本初になれなかったことを悔やむのではなく、旧石器人がこの朝日町に暮らした事実、暮らしやすいところとして選んだ事実を分かって欲しい」と、語りかけているような気がしました。

利便性などだけが求められる現在において、本当の意味での暮らしやすさとは何かを教えられたシンポジウムでした。

（岡崎）

■広報あさひまち　第481号　平成8年12月15日発行　■発行　山形県朝日町　■編集　朝日町広報委員会／山形県西村山郡朝日町大字宮宿1115　☎0237(67)2111　■印刷　豊田文印刷所